

令和4年度 第3回浦川原区地域協議会 次第

と き 令和4年6月28日(火) 18時30分から

ところ 浦川原コミュニティプラザ 市民活動室4・5

1 開 会 (:)

○会議の成立確認(成立出席委員数6人) 出席委員数____人 欠席委員数____人

○会議録の内容確認者の指名 確認委員の氏名 春日清美 委員

2 報 告

(1) 会長報告

(2) 委員報告

(3) 市からの報告

- ・中山間地域農業の維持・振興に向けたワークショップの開催状況と今後の展開について(資料1)

3 協 議

(1) 令和4年度活動計画について(資料2)

(2) 自主的審議事項の検討について

4 その他

- ・出張なんでも懇談会の開催について(資料3)

5 次回の会議日程

- ・令和4年度第4回地域協議会

日時：令和4年 月 日 () 時 分から

会場：_____

6 閉 会 (:)

中山間地域農業の維持・振興に向けた
地域自治区別ワークショップ(みらい農業づくり会議)
開催状況及び今後の展開

令和4年6月28日(火)

上越市中山間地域元気な農業づくり推進協議会
浦川原区区推進チーム

令和3年度における開催状況及び今後の展開について

中山間地域農業の維持・振興 「ありたい姿」(将来の方向性)

地域農業者が
主体的に議論し、
共有する

課題解決に向けたテーマ別方策

担い手・後継者の確保



農業生産維持に向けた
作物選定・所得確保



農業機械・スマート農機の
共有化・共同利用



土地利用の明確化・
農地条件の改善



活動のエンジンとなる組織

推進チーム(市・県・JA・農業委員会)として

市の役割

「ありたい姿」の実現に向けて定められた方策に対する各種支援

令和3年度

幅広い参加者が率直な意見・考えを出し合い、
中山間地域農業のあるべき姿、理想的な姿を共有し、
4つのテーマごとに、実現に必要な取組を見出す

令和4年度

- 見出された必要な取組の具体化を検討・共有
「いつ」 「誰が」 「どうやって」
- 取組を下支えする「活動のエンジンとなる組織」の検討

令和5年度以降

共有された取組の実践

中山間地域等直接支払交付金 集落戦略の作成などの各種施策へも反映

- ・ 中山間地域等直接支払制度に取り組む地区がある

7の地域自治区で各2回開催

～理想的な中山間地域農業のあるべき姿を広域的観点で探る

- ・ 直接支払集落協定や集落の役員だけでなく、

若手や女性など幅広い世代の農業者が参加

～発言しやすい環境づくりのため、性別・年代を偏らせたグループ編成

- ・ 話し合いを促すファシリテーターとして

市、県、農業委員会、農協で構成する「推進チーム」を編成

～各々が担当する立場で、地域の意見を吸い上げる心構えで臨む

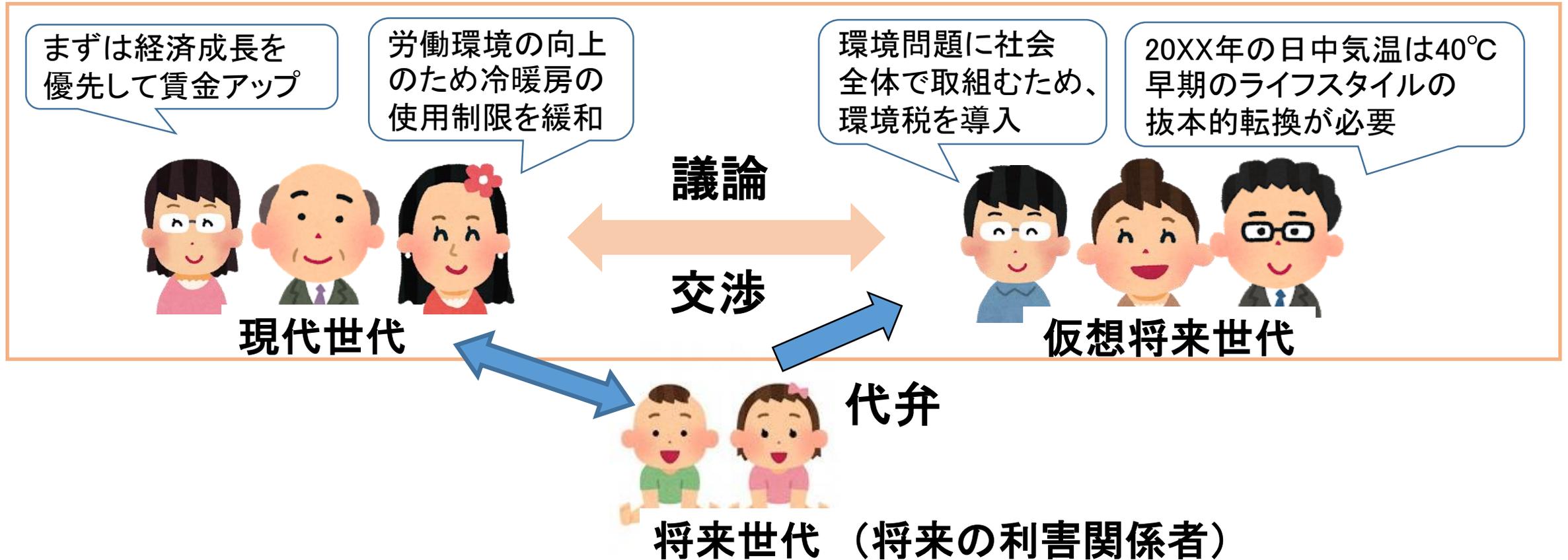
県事業等による取組の概要

地域 自治区	取組手法 (実施主体)	会議の名称	取組概要	これまでの取組	今後の予定
浦川原区	フューチャー デザイン・ ワークショップ (明治大学)	浦川原区みらい 農業づくり会議	参加者が「現代世代」と「仮想将来世代」になり切り、地域が抱える課題への対応策を検討し、それぞれの視点で議論することにより、長期的な視点に立った対応策を見出す。	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度にワークショップを2回開催 地域の資源や取り組むべき方策について洗い出すとともに、「未来人」の視点で「残したいもの」「変えてはならないもの」などを議論した。 	令和3年度に議論した内容を、他の地区同様に課題解決に向けた5つのテーマ別に振り分け、必要な取組の設定・共有を行う。
中郷区	ビレッジプラン 2030 (新潟県)	中郷区農業の 未来を考える会	<p>参加者が、人口推計に基づく地域の人口減少危機を具体的に把握した上で、地域の維持に向けた定住目標や活性化の取組を検討し、実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状分析 人口推計に基づいて予測される将来の人口と農業者の減少を緩和する「人口安定化シナリオ」(定住目標)や、地域の人的資源を洗い出す「地元関係図」を作成 将来プランの作成 現状分析を踏まえ、定住目標を達成するための各種取組や必要な組織づくりなどを定める。 将来プランの実践 	<ul style="list-style-type: none"> 令和2・3年度に計9回のワークショップを開催し、「将来プラン」を策定 重点取組項目として、「中郷ブランドづくり」「都市農村交流の促進」「女性の活躍の場創出」「必要な体制づくりや広域連携」を見出した。 	令和3年度に定めた「将来プラン」に基づき、年次計画で各種の取組を実践
清里区	ビレッジプラン 2030 (新潟県)	「きよさと未来予想図」を作る会	<ul style="list-style-type: none"> 将来プランの作成 現状分析を踏まえ、定住目標を達成するための各種取組や必要な組織づくりなどを定める。 将来プランの実践 	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度にワークショップを6回開催 地元関係図の作成過程から、基本的な方針として、地域の維持に必要なサービス(就労場所)を提供する3つの広場(山・農・村)の形成を目指すこととした。 	令和3年度の議論を踏まえ、「将来プラン」への昇華を目指し、参加者による区内踏査(6月)や、モデル事業の実施(10月)を予定

フューチャーデザイン = 地域の課題を未来の
視点で考える

- 将来に生きる人々の目線で、今、私たちが何をすべきかを考える手法
- 参加者に「将来世代」になり切ってもらい、仮想将来世代から見た妥当な政策を議論するというもの
- 長期間に影響する政策決定の場合、その政策に最も影響を受け、コストの負担者でもある20XX年後の未来を生きる人々の声を政策に反映させようとするもの

(例) 環境問題をテーマにしたフューチャーデザイン



20XX年に生きる将来人になりきった「仮想将来世代」が、現代世代と議論・交渉するワークショップを行い、将来に生きる世代の観点を加えて政策を考えることで、世代間の利害対立を解消することが可能に

会議名 浦川原区みらい農業づくり会議

日時 1回目：3月14日(月)・2回目：3月28日(月)

会場 浦川原地区公民館 講堂

参加者 延べ59人

○ 地域農業者等 (延べ39人)

(中山間地域等直接支払の対象集落協定及び個別協定・農業法人・農業委員・集落づくり推進員)

○ 関係機関 (延べ20人)

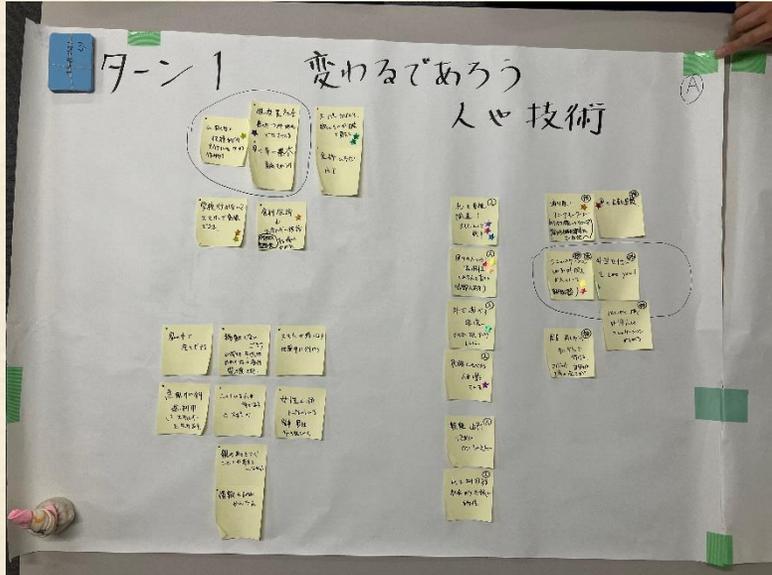
(明治大学・新潟県・JAえちご上越・上越市)

※ 基本的に2回とも同じ参加者

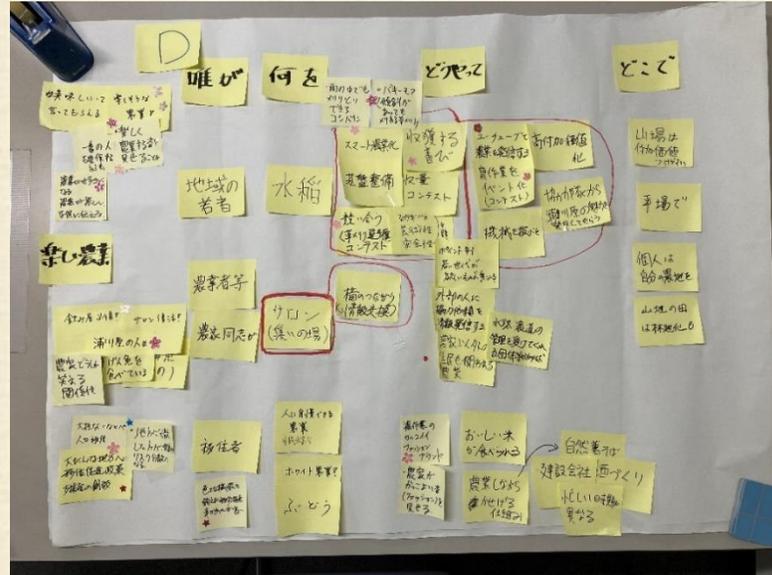
概要 明治大学主導によるフューチャーデザイン・ワークショップ (ワークショップ形式)

※ 参加者が将来世代になり切って、将来世代から見た未来の浦川原区中山間地域の農業を中心に話し合った。

第1回開催



第2回開催



参加者の率直な考えを付箋に書き出し、関連する
カテゴリーに分類するとともに、さらにグルーピング

4グループで、課題と
取組内容の発表

浦川原区では、付箋枚数 334 枚 に及ぶ地域の課題や取り組むべき方向性を洗い出した

※ 令和4年度は、これまで検討してきた今後必要となる取組を、より具体化したものにしていく。
これまでと同じワークショップ形式で開催する予定 (1回目：7月中旬・2回目：秋頃)

第1回開催(令和4年3月14日)

自分が子や孫になりきり、
将来変わるであろう「文
化」や「技術」を洗い出す

将来に「残しておきたいこと」
や「伝えていきたいこと」を洗
い出す

- ・ 未来の主食が変わる
(新品種、小麦)
- ・ 草刈りからの脱却(草が生えない
技術、草が伸びない除草剤)
- ・ 空き家を使った2拠点生活
- ・ 兼業農家でなく兼業サラリーマン
- ・ スマート農機を使った農作業
- ・ 欲しい物が自宅のインターネット
で買える
- ・ 学校に行かないで、スマホで勉強
ができる
- ・ 車の自動運転

- ・ 朴葉で包んだ赤飯、カタモチ
- ・ 自家製の味噌、豆腐、こんにやく
- ・ マトンを食べる食文化
- ・ 根曲竹や孟宗竹を使った食や技術
- ・ 鳥追い
- ・ 夏は海、冬はスキー
- ・ 山菜取りの場所や技術
- ・ 先人の知恵
- ・ 春祭り、秋祭り
- ・ 雅楽、かぐら

第2回開催(令和4年3月28日)

第1回で出た意見を踏まえて、今すべき役割
(何を・誰が・どこで・どうやって)につ
いて意見交換する

- ・ 「お酒」を「文化として残す」「酒蔵を残す」
「飛びぬけた味を目指す」
- ・ 「アレルギーのない米」「米粉100%のパン」を
「Uターン者」「テレワークで田舎に住む人」が
「中山間のほ場」で「品種改良」「SNSでの販売
促進」をする
- ・ 「山のうまい米」「そば」の技術を「スマート農
業」や「IT」に長けている人が「中山間地域」で
「子供たちに伝える」
- ・ 「根曲竹や孟宗竹」を「森林組合や移住者」が
「加工所を建設」「休耕田を利用」して「加工方
法や食べ方」「竹細工や笹茶」を教える

延べ14回・444名が議論に参加

谷浜・桑取区
12月14日(火)・3月29日(火)
延べ60名参加

吉川区
11月19日(金)・3月23日(水)
延べ63名参加

大島区
11月30日(火)・3月24日(木)
延べ69名参加

名立区
8月20日(金)・12月21日(火)
延べ69名参加

安塚区
11月25日(木)・3月25日(金)
延べ65名参加

板倉区
11月26日(金)・3月22日(火)
延べ56名参加

牧区
11月29日(月)・3月23日(水)
延べ62名参加

※浦川原区:明治大学主導のフューチャーデザイン・ワークショップ
※中郷区・清里区:新潟県主導のビレッジプラン
※柿崎区:第5期対策開始時に協定広域化議論実施済

令和3年度における地域自治區別ワークショップの開催状況 ～キャッチフレーズ・将来の方向性～

地域自治区	キャッチフレーズ	将来の方向性			
		担い手・後継者の確保	作物選定・所得確保	機械共同化・スマート農機導入	土地利用・農地条件
谷浜・桑取区	谷浜・桑取区らしきである海から山までの地域資源を活かし、地域内外の人との交流により、桑谷ファンを増やします	<ul style="list-style-type: none"> 谷浜・桑取区の「らしき」「ならでは」であるNPOや生産組合等の既存組織の活力、歴史や伝統の継承、人と人とのつながりなどを活かし、「見る」から「体験」までのきっかけづくりを大切に農業者と地域の担い手確保、コロナ禍における第2のふるさとづくりに努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊富な山・海のめぐみや貴重な地域資源を活かした食のブランド化に向けた取組を推進します。 谷浜・桑取区の今(ひと・食・伝統・くらし など)を発信し、さらなるファンづくりに努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体化な対策を講じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊富な水資源や水源涵養活動を活かし、地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を令和4年度中に行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業施設の整備・修繕等を実施します。
安塚区	安塚区らしきである豊かな自然と雪を活かし、ひと手間とブランド化により、持続可能な農業をめざします	<ul style="list-style-type: none"> 担い手不足を補うため、地域のまとまりを活かし、新規就農者(農ガールも！)や移住者の受入体制を整えます。 将来に向けて、農地の管理、栽培、コメの販売までを手掛ける集落営農法人の設立を目指します。 豊かな自然環境を活かして、定住化(UIJターン)に取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> スキー場と温泉の交流人口を活かした情報発信を行い、豊かな環境のもとで作られた農産物売り込みます。 雪室を活用した農産物の高付加価値化を図るとともに、様々な販売ルートを通じて、安塚区の農産物(米、山菜等)を販売し、地域全体の増収を目指します。 雪室を利用した特産品を開発します。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体化な対策を講じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に、地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地、農道、水路、ため池の整備・修繕等を実施します。
大島区	大島区らしきである人や物・自然の豊かさを活かし、楽しい農業や地域のつながりにより、人生の楽園をめざします	<ul style="list-style-type: none"> 担い手不足を補うため、地域のまとまりを活かし、新規就農者(農ガールも！)や移住者の受入体制を整えます。 将来に向けて、農地の管理、栽培、コメの販売までを手掛ける集落営農法人の設立を目指します。 豊かな自然環境を活かして、定住化(UIJターン)に取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> SNS等を活用して、豊かな自然環境やホテルなどの地域の宝をPRし、農業体験イベントを通じた交流を促進します。(結果として、農産物の販売促進や担い手・後継者の確保にもつながる) 棚田米等の高付加価値化を図り、様々な販売ルートにより大島区の農産物(米、山菜等)を販売し、地域全体の増収を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体化な対策を講じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に、地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地、農道、水路、ため池の整備・修繕等を実施します。
牧区	牧区らしきである自然・棚田・人情を活かし、SNSでのPRにより、美味しさを世界へお届けします	<ul style="list-style-type: none"> 空き家を活用した移住の手法を検討します。 ボランティアの募集・受入体制を整備します。 女性の農業参入を促進するため、環境を整備し、将来的には農業で集落内外の人材を雇用します。 	<ul style="list-style-type: none"> 牧区の自然を活用した販売促進、イベントの開催を検討します。 様々なメディア(媒体)を使用し、牧区の魅力や歴史、商品をPRします。 	<ul style="list-style-type: none"> 各生産組合・農事組合法人で連携し、スマート農業の導入を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来的に、基盤整備(農地・農道・水路・ため池)の構想を検討します。特に水不足に対応するため、既存のため池の有効利用も含めて、用水の確保をします。
吉川区	吉川区らしきである人のあたたかさや自然の多様性を活かし、移住の促進と交流人口の拡大することにより、担い手農家の確保・育成を図ります	<ul style="list-style-type: none"> 「地域のまとまり」を活かし、非農家の協力や担い手への集積など、地域内でできる対策を講じます。 将来に向けて、広域的な集落営農・法人化など新たな農業生産体制への移行を目指します。 将来的には、移住・定住者を増やします。 	<ul style="list-style-type: none"> 吉川区「らしき」「ならでは」を活かし、「山・水・農」のパッケージ化と「歴史・文化」のストーリー化により「吉川ブランド」を確立させます。 SNSやネット販売などを通じて吉川ブランドを発信します。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体化な対策を講じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度に行った「集落戦略」を見直し、第6期対策(令和7年度～)に向けて守るべき農地を明確化します。 その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業用施設の整備・修繕等を実施します。
板倉区	板倉区らしきである米とソバの美味しさを活かし、インターネットにより、板倉の農業を世界に広げます	<ul style="list-style-type: none"> 移住者の受け入れを促進します。 将来的に、空き家を活用した移住者向け住宅整備を検討します。 ボランティアの募集・受入体制を整備します。 将来的に、人材(リーダー)育成組織の立ち上げを検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ソバの生産・販売を強化します。 板倉区や農業の良さをPRする手法を検討します。 雪や観光地を活用した販売方法を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> 平場の農業者と連携し、スマート農業の導入や中山間地域・平場の共同による農地と農業用施設の維持管理を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に行う「集落戦略の作成」において、第6期対策(令和7年度～)に向けて守るべき農地・活用可能な農地を線引きします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業用施設の整備・修繕等を実施します。
名立区	名立区らしきである豊富な資源を活かし、地域の連携や発信により、名立を日本中に売り込みます	<ul style="list-style-type: none"> 「地域のまとまり」を活かし、非農家の協力や担い手への集積など、地域内でできる対策を講じます。 将来に向けて、集落営農・法人化など新たな農業生産体制への移行を目指します。 将来的には、移住・定住者を増やします。 	<ul style="list-style-type: none"> 名立区「らしき」「ならでは」を活かし、「山・水・農・海」のパッケージ化と「歴史・文化」のストーリー化により「名立ブランド」を確立させます。 SNSやネット販売などを通じて名立ブランドを発信します。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体的な対策を講じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を令和4年度中に行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業施設の整備・修繕等を実施します。

谷浜・桑取区

谷浜・桑取区らしきである海から山までの地域資源を活かし、
地域内外の人との交流により、桑谷ファンを増やします

安塚区

安塚区らしきである豊かな自然と雪を活かし、
ひと手間とブランド化により、持続可能な農業をめざします

大島区

大島区らしきである人や物・自然の豊かさを活かし、
楽しい農業や地域のつながりにより、人生の楽園をめざします

牧区

牧区らしきである自然・棚田・人情を活かし、
SNSでのPRにより、美味しさを世界へお届けします

吉川区

吉川区らしさである人のあたたかさや自然の多様性を活かし、
移住の促進と交流人口の拡大することにより、
担い手農家の確保・育成を図ります

板倉区

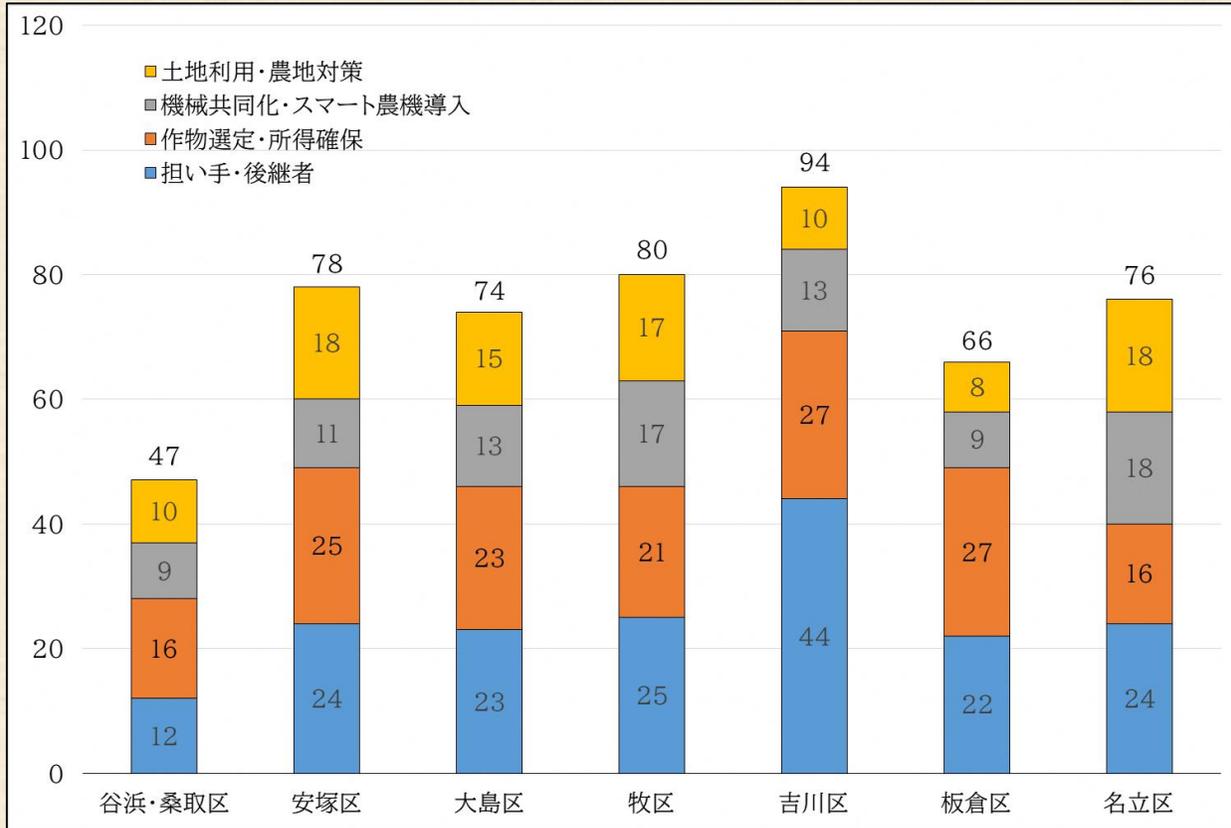
板倉区らしさである米とソバの美味しさを活かし、
インターネットにより、板倉の農業を世界に広げます

名立区

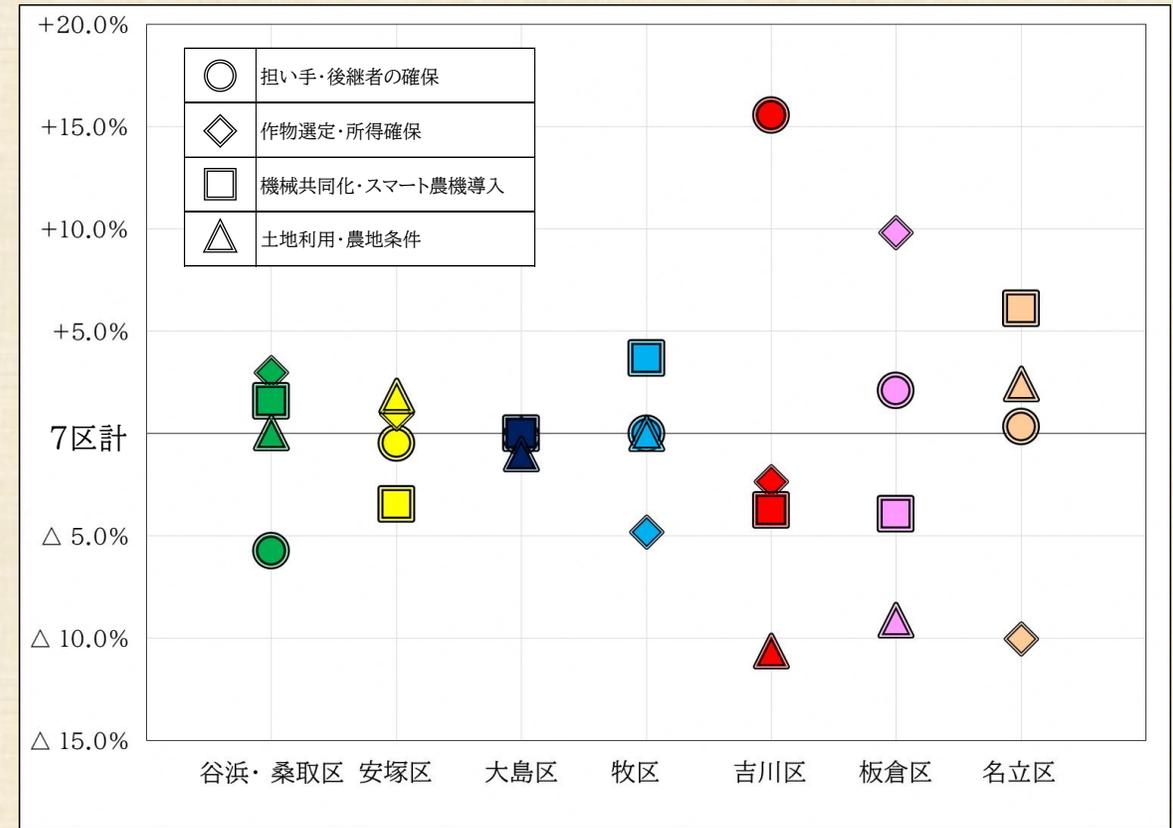
名立区らしさである豊富な資源を活かし、
地域の連携や発信により、名立を日本中に売り込みます

課題解決に向けたテーマ	見出された取組の例	
	今取り組めるもの	将来取り組むべきもの
担い手・後継者の確保	<ul style="list-style-type: none"> 移住者の受入れ促進(PR強化) 空き家を移住者のために整備 各種ボランティアの活用(棚田サポーター、支え隊) SNSで稲刈り風景などを発信 地域おこし協力隊を増員 定年帰農者の受入れ 	<ul style="list-style-type: none"> 移住者を担い手に育てていく 「暮らしたい」と思われる地域づくりを目指す 集落営農法人の集約化・広域化 空き家を一括管理して移住環境を整える 女性の農業参入を促す <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">移住者に関することが多い</div>
作物選定・所得確保	<ul style="list-style-type: none"> SNSでの情報発信 区出身者へのコメの売り込み インターネットを利用した販売の共同化 観光農園の造成 雪中貯蔵 	<ul style="list-style-type: none"> 海外販売ルートの開拓 観光産業とのタイアップ 山菜取り有料レジャー化、農家レストラン ジビエ加工所の設置と運営 廃校を利用してのイチゴ栽培 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">SNS発信やブランド化が多い</div>
機械共同化・スマート農機導入	<ul style="list-style-type: none"> ドローンやラジコン草刈り機の導入・共同化 農業機械の共同利用体制整備 機械免許の取得 機械を個人で更新しないという申し合わせをする 	<ul style="list-style-type: none"> 専従オペレータの育成 スマート農機のレンタル ドローンによる資材搬送・出荷 担い手への機械導入補助割合を高める 平場法人との連携(ドローンなど) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">スマート農機導入が多い</div>
土地利用・農地条件	<ul style="list-style-type: none"> 既存水路を修復して活用する 現状確認のためのフィールドワーク、遊休農地の把握 集落農地を色分けして現状を把握する 多面的機能支払交付金の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 基盤整備・ほ場整備 用水路の大規模改修 農地の見える化(農地のデジタル化) 農地バンクのようなものを作り、管理する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">農地・施設の整備が多い</div>

各区におけるテーマ別取組数
(区内での関心度)



テーマ別取組構成比率の各区と7区全体との差
(市内における関心度の差)

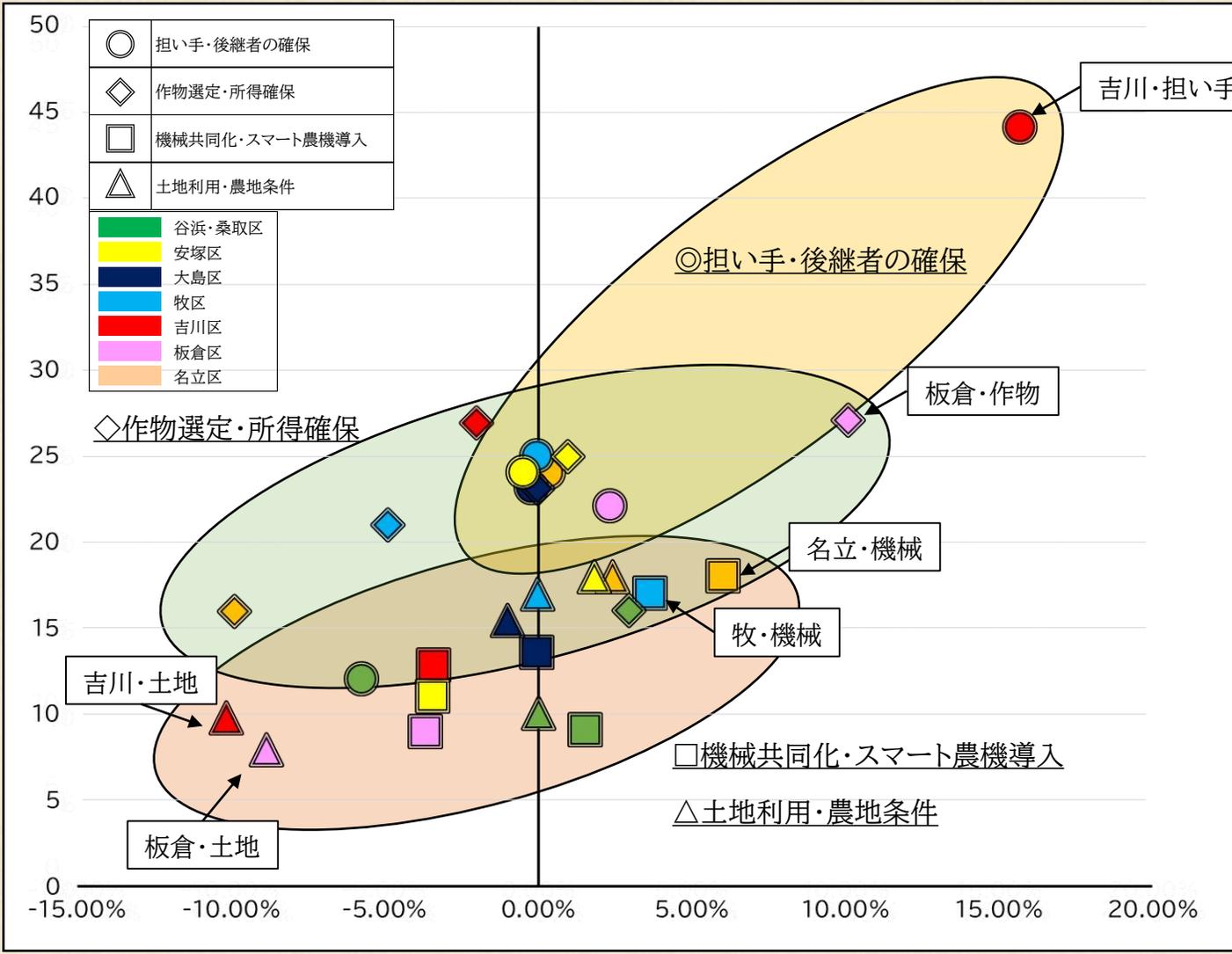


「担い手・後継者」に関する取組が多く見出され、
次いで、「作物選定・所得確保」に関する取組が多い傾向に

吉川区の「担い手・後継者の確保」と
板倉区の「作物選定・所得確保」が突出して高い比率に

第2回目で見出された取組の数と地区別傾向

(区内での関心度)
見出された取組の数



各区構成比率と7区構成比率との差
(市内における関心度の地域差)

◎担い手・後継者の確保

- ほぼ全ての区で見出された取組数が最も多くなっており、関心が高い取組と考えられる。
- 吉川区で取組数と構成比率差が特に突出している。

◇作物選定・所得確保

- 「担い手」に次いで取組数が多く見出されているが、各地区で構成比率差が大きい。
- 板倉区で取組数と構成比率差が+で突出している。

□機械共同化・スマート農機導入

- 「担い手」や「作物」に比べると取組数が少ないが、牧区や名立区では構成比率差が+で大きくなっており、関心が高いものと考えられる。

△土地利用・農地条件

- 「機械」と同様に「担い手」や「作物」に比べると取組数が少なく、特に吉川区と板倉区では構成比率差が- (マイナス) で大きくなっている。

7月

第3回みらい農業づくり会議

グループワーク

10月以降

第4回みらい農業づくり会議

第2回目の議論で見出された
テーマ別の「必要な取組」

「今取り組めるもの」
「将来取り組むべきもの」

を、グループワークでの
議論材料として整理

担い手・後継者の確保

作物選定・所得確保

機械共同化・スマート農機導入

土地利用・農地条件

活動のエンジンとなる組織

グループワークでの
議論を集約化し、
地域将来ビジョン

として決定・共有

課題解決のテーマ別に取り組の具体化を議論
(いつ、誰が、どうやって)

各種取組を展開

令和 4 年度活動計画について

(令和 4 年 6 月 21 日現在)

1 自主的審議

令和 4 年度計画	令和 3 年度実績
<p>A グループ</p> <p>○うらがわらスポーツクラブ、浦川原商工会、町内会長連絡協議会の 3 団体に集まっていたいただき、意見交換を実施予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4 月 26 日 町内会長連絡協議会総会 内容：意見交換実施に向けた協力依頼 ・5 月 25 日 うらがわらスポーツクラブ理事会 内容：意見交換実施に向けた協力依頼 ・6 月 8 日 うらがわらスポーツクラブ総会 内容：地域の課題等の聞き取り <p>B グループ</p> <p>○中山間地域における公共交通の在り方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4 月 26 日 勉強会 講師：市交通政策課 内容：区内の公共交通の現状と市の施策（予約型乗合バスの状況や住民の「互助による輸送」等に対する補助制度）について説明を受けた。 ・浦川原区の交通形態について継続協議 <p>○大浦安の学校の在り方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の在り方について継続協議 	<p>○大浦安の学校に関する勉強会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7 月 7 日、1 月 24 日に教育委員会の取組について説明を受けた。 <p>○自主的審議事項の検討に向けたグループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11 月の地域協議会で、委員それぞれが考える自主的審議の検討に向けた提案を行い、大きく 4 つのテーマに分類し、委員を A・B の 2 グループに分けて話し合いを進めることとした。両グループとも 1 月 21 日に 1 回目のグループワークを実施。 ・A グループは、地域の課題を拾い上げるため、2 班に分かれて地域団体等との意見交換を行うこととし、まずは、「うらがわらスポーツクラブ、浦川原商工会、町内会長連絡協議会」を候補として実施する予定。 ・B グループは、テーマの一つである中山間地域における公共交通の在り方について、ほくほく線の現状と課題を学ぶため、北越急行株式会社の小池社長を講師に、「25 年目の原点回帰」と題して 3 月 11 日に一般公開で開催。委員 8 人を始め、区内外から 39 人が参加。

2 「地域活性化の方向性」の作成

令和 4 年度計画	令和 3 年度実績
<p>○内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浦川原区の個性や特性をいかしながら、地域の課題解消や現在の状態を良くすることで、地域活性化につながるもの。 <p>○作成に向けて、アイデア出し、話し合いを行う。</p>	

3 地域活動支援事業の審査等

令和4年度計画	令和3年度実績
○5月21日(土) 提案事業審査 ・審査結果 採択6事業、不採択なし 補助額 4,545千円 ※追加募集なし ○3月中旬 成果報告会	○5月22日(土) 提案事業審査 ・審査結果 採択10事業、不採択2事業 補助額 5,400千円 ※追加募集なし ○10月6日 事業の進捗状況報告(事務局) ○3月19日(土) 成果報告会及び次年度説明会

4 出張地域協議会

地域協議会の活動を理解していただくとともに、地域住民の意見を収集するため、出張地域協議会を開催し、会議後に地域住民との意見交換を実施する。

令和4年度計画	令和3年度実績
○中保倉地区(中猪子田集会所)で、9月～10月に開催予定	○6月26日(土) 月影地区(谷集会所) ○参加者 地域住民15人 ○主な意見交換 ・月影地区で高齢者が安心して暮らしている施策の議論について ・中学生との意見交換会の取組結果の周知について ・集落の終活に関する議論について

5 中学生との意見交換会

次世代を担う浦川原中学校生徒を対象に、地域に対する愛着や地域を大切に思う心を育みながら、中学生自ら地域づくりのできる事は何かを考えてもらうための「きっかけ作り」にするとともに、地域協議会委員が地域の課題を認識する機会とする。

令和4年度計画	令和3年度実績
○浦川原中学校1年生を対象に実施 ○実行委員 村松副会長、池田副会長、春日委員、北澤正彦委員、宮川委員 ○早期の開催ができないか学校と調整しながら、生徒が浦川原の魅力を守るために何ができるのかを深掘りし、一段階上のステップに向けて関わりを持つことを目指す。	○1年生を対象とし、「歴史・文化」をテーマに、施設等の見学及び地域協議会委員とのワークショップ、マップ製作の実施。 ○実行委員 村松副会長、池田副会長、春日委員、北澤正彦委員、宮川委員 ○主な実施内容 ・8月6、23、31日 実行委員打合せ ・10月27日 区内現地学習(6か所) ・3月8日 中学生とのワークショップ

6 研修会の開催

委員の資質向上を図るとともに、更なる見識を深めることを目的とする。

浦川原区地域協議会委員のみによる研修会だけでなく、共通認識を共有することで、効果的なまちづくりが進められるよう町内会長連絡協議会や諸団体、他区の地域協議会との合同開催も可。また、先進地視察も可能。

大島・浦川原・安塚区地域協議会合同の研修会を3区持ち回りで開催しており、当区の次回の担当は令和5年度の予定。

令和4年度計画	令和3年度実績
○浦川原区地域協議会委員研修会（案） <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ：地域自治推進プロジェクト ・講師：自治・地域振興課職員 ・開催時期：秋頃 	○浦川原区地域協議会委員研修会 11月22日（月） <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ：転換点に立つ集落～どうしても守れない集落・エリアに対してどう向き合うか～ ・講師：島根大学教育学部 作野教授 ・参加者：50人
○大浦安合同研修会 安塚区担当 <ul style="list-style-type: none"> ・10月～11月開催予定 	○大浦安合同研修会 5月6日（木） <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ：「上越市と地域協議会」～上越市における地域自治区の在り方～ ・講師：野澤朗 元副市長 ・会場：大島就業改善センター

7 地域協議会だよりの発行

浦川原区地域協議会の活動内容について、地域住民への報告と周知のため、地域協議会の活動内容を掲載した広報紙である地域協議会だよりを発行する。

令和4年度計画	令和3年度実績
○年3回発行予定 ○7月25日（通算53号） 1班担当 1班：藤田会長、春日委員、北澤正彦委員、五井野委員	○7月25日（通算51号） 3班担当 <ul style="list-style-type: none"> ・月影地区出張地域協議会開催報告 ・地域活動支援事業採択結果一覧 ・大浦安地域協議会委員研修会報告 ○2月25日（通算52号） 事務局担当 <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動支援事業事前相談実施周知

皆様のご意見をお聞かせください

回 覧

令和 4 年度 出張なんでも懇談会の開催

浦川原区内の課題や地域づくりなどについて、皆さんと意見交換を行うとともに、地域の課題解決に向け、地域と総合事務所が一緒に考え、取り組むために出張なんでも懇談会を開催します。お気軽にご参加ください。

<開催日程>

地 区	期 日	時 間	会 場
中保倉	7月16日(土)	13:30~	中猪子田集会所 (2階)
末 広	7月16日(土)	18:00~	浦川原里山地域活性化センター (多目的室)
月 影	7月31日(日)	9:30~	熊沢集会所
下保倉	7月31日(日)	13:30~	浦川原コミュニティプラザ (4階 市民ホール)

<主な内容>

- 総合事務所からの情報提供
- 対話形式による意見交換

<その他>

- 申込みは不要です。
- 懇談会はおおむね 2 時間程度を予定しています。

昨年の様子



■問合せ

浦川原区総合事務所 総務・地域振興グループ
〒942-0393 上越市浦川原区釜淵 5

電 話：025-599-2301 (内線 302)

F A X：025-599-2225

電子メール：uragawara-ku@city.joetsu.lg.jp